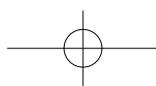
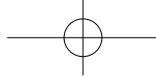


平成29年度 市内遺跡発掘調査報告書

2018

甲賀市教育委員会

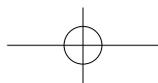
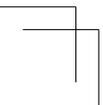
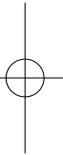
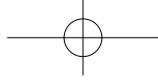
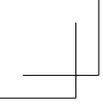


甲賀市文化財報告書 第31集

平成29年度 市内遺跡発掘調査報告書

2018

甲賀市教育委員会



序

滋賀県の南東部に位置する甲賀市は、豊かな自然の中に、多くの文化財が残されています。市内には「紫香楽宮跡」・「垂水斎王頓宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」といった国指定史跡があり、現在、約 530 箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている他、有形無形の数多くの文化財があります。これらの文化財は先人から受け継いだ貴重な財産であり、豊かな歴史文化の象徴です。また文化財は一度失われると二度と復元することができない、かけがえのない歴史遺産であり、この「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。今日まで残されてきた文化財を保護し、調査、研究をすることによって地域の歴史が明らかとなり、市民活動と連携することで郷土への愛着や誇りの機運を醸成し、まちづくりへと発展していきます。

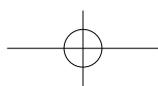
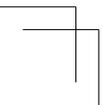
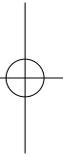
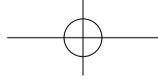
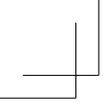
教育委員会では、市内の開発行為に伴い試掘・確認調査を実施しています。この調査によって未発見の遺跡を確認するなど、重要な成果をあげています。本報告書に掲載する調査成果が本市の歴史を解明する一助となり、広く活用されることを切に願っています。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、御協力いただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成 30 年(2018 年)2 月

甲賀市教育委員会

教育長 山下 由行



例 言

1. 本書は甲賀市教育委員会が平成 28 年度に実施した試掘・確認調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、平成28年度に現地調査を実施し、平成 29 年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存整備費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 平成28年度および平成 29 年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。

調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 山本 佳洋（～平成 28 年 10 月）
甲賀市教育委員会 教育長職務代理者 山田 喜一郎
（平成 28 年 10 月～平成 29 年 1 月）
甲賀市教育委員会 教育長 山下 由行（平成29年1月～）

調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課
課長 長峰 透
課長補佐 兼 埋蔵文化財係長 鈴木 良章
主査 小谷 徳彦
主査 渡部 圭一郎
技師 伊藤 航貴
嘱託 末次 由紀恵（平成 28 年度）
河村 萬里（平成 29 年度）
4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当し、平本瞳（調査作業員）が作業にあたった。
5. 本書で使用した水準高は東京湾平均海面高度を基準としている。なお、本書で示す北は座標北である。
6. 本書で報告した発掘調査で出土した遺物や図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。

目 次

試掘調査

全体概要	1
16-10 次 安養院遺跡の調査	2
16-11 次 水口城遺跡の調査	4
16-13 次 竹石遺跡近接地の調査	6
16-22 次 北泉遺跡の調査	8
16-23 次 城南遺跡の調査	10
16-24 次 鍛冶屋敷遺跡の調査	12
16-25 次 寺庄城遺跡の調査	14
16-26 次 水口町酒人地先の調査	16

全体概要

甲賀市において平成28年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査は、開発事業などにかかる試掘・確認調査及び分布調査が26件、民間開発事業にかかる本発掘調査が1件であった。

開発事業などに伴う試掘・確認調査及び分布調査のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が6件、同近接地で実施した調査が1件、同範囲外で実施した調査が19件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘・確認調査の件数は、平成27年度の31件より5件減少した。

表1に平成28年度中に実施した試掘・確認調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が2件、遺構の存在を確認した調査は0件であった。また、安養院遺跡内で実施した試掘調査16-10次では、調査対象地が遺跡範囲の最北端であり、遺構・遺物ともに確認されなかったため、安養院遺跡の範囲を縮小した。本報告書では平成28年度に実施した試掘・確認調査のうち、埋蔵文化財包蔵地内及び近接地で行った調査と、遺物を確認した調査について概要を記す。

表1 平成28年度に実施した試掘・確認調査一覧

NO	内容	調査 回数	調査 開始日	調査 終了日	調査地			目的	遺跡 有無	遺跡 名称	結果	調査面積	遺物	詳細	遺構	詳細
					町名	大字	小字									
001	試掘	16-01	H28.5.13	H28.5.13	水口町	伴中山	神田	j工場	無			45	×		×	
002	試掘	16-02	H28.5.13	H28.5.13	水口町	泉	西之野	h住宅	無			21	×		×	
003	試掘	16-03	H28.5.20	H28.5.20	水口町	新城	北沢	wその他開発	無			24	×		×	
004	試掘	16-04	H28.5.19	H28.5.19	水口町	水口	樋下	mその他建物	無			90	×		×	
005	試掘	16-05	H28.5.30	H28.5.30	水口町	水口	樋下	k店舗	無			45	×		×	
006	試掘	16-06	H28.6.9	H28.6.9	甲南町	寺庄	樋余	n宅地造成	無			20	×		×	
007	試掘	16-07	H28.7.27	H28.7.27	甲南町	野田	下浦	n宅地造成	無			30	×		×	
008	試掘	16-08	H28.7.28	H28.7.29	土山町	北土山	田中、西ノ宮	wその他開発	無			90	×		×	
009	試掘	16-09	H28.8.31	H28.8.31	土山町	北土山	田村野	k店舗	無			20	×		×	
010	本発掘	NY1	H28.4.26	H28.6.15	甲南町	野田	西藪ノ内	n宅地造成	あり	西藪ノ内遺跡						
011	試掘	16-10	H28.9.14	H28.9.14	甲南町	竜法師	宮根	i個人住宅	あり	安養院遺跡	18	×		×		
012	試掘	16-11	H28.9.13	H28.9.13	水口町	本丸		i個人住宅	あり	水口城遺跡	3.6	×		×		
013	試掘	16-12	H28.9.26	H28.9.26	水口町	鹿深		n宅地造成	無			87	×		×	
014	試掘	16-13	H28.10.4	H28.10.11	水口町	三大寺	竹石	wその他開発	近接地	竹石遺跡	135	×		×		
015	試掘	16-14	H28.10.13	H28.10.13	水口町	新城	埜間	h住宅	無			30	×		×	
016	試掘	16-15	H28.10.18	H28.10.18	土山町	北土山	田村野	k店舗	無			60	×		×	
017	分布調査	16-16	H28.11.2	H28.11.2	甲賀町	隠岐	大谷	wその他開発	無			9975	×		×	
018	試掘	16-17	H28.10.19	H28.10.19	水口町	新城	西山田	wその他開発	無			30	×		×	
019	試掘	16-18	H28.10.19	H28.10.19	水口町	中郎		h住宅	無			30	×		×	
020	試掘	16-19	H28.10.25	H28.10.25	信楽町	黄瀬	角子	wその他開発	無			30	×		×	
021	試掘	16-20	H28.11.15	H28.11.15	信楽町	黄瀬	角子	wその他開発	無			45	×		×	
022	試掘	16-21	H28.11.21	H28.11.21	土山町	北土山	田村野	mその他建物	無			75	×		×	
023	試掘	16-22	H29.2.14	H29.2.14	水口町	北泉		h住宅	あり	北泉遺跡	30	×			×	
024	試掘	16-23	H29.1.26	H29.1.26	水口町	水口	樋下	wその他開発	あり	城南遺跡	75	△	土師器、陶器、磁器類		×	
025	試掘	16-24	H29.2.3	H29.2.3	信楽町	黄瀬	半シ	i個人住宅	あり	鍛冶屋敷遺跡	12	×			×	
026	試掘	16-25	H29.3.13	H29.3.13	甲南町	寺庄	門田	h住宅	あり	寺庄城遺跡	38	×			×	
027	試掘	16-26	H29.3.9	H29.3.9	水口町	酒人	北田井	mその他建物	無			45	△	埴輪類、土師器、瓦葺、瓦		×

16-10次 安養院遺跡

調査位置と調査経緯

安養院遺跡は、甲南町竜法師に所在する社寺跡である。遺跡は柚川左岸の河岸段丘上に立地し、現況は水田となっている。安養院は天喜3年(1055年)に創建され、寛文2年(1662年)に消失し、現在の嶺南寺に移ったといわれている。これまで遺跡内において試掘・確認調査は実施しておらず、遺跡の詳細は明らかとなっていない。今回の調査は遺跡の北端部で実施した。個人専用住宅の建設に伴う試掘調査で、調査面積は18㎡であった。

調査概要

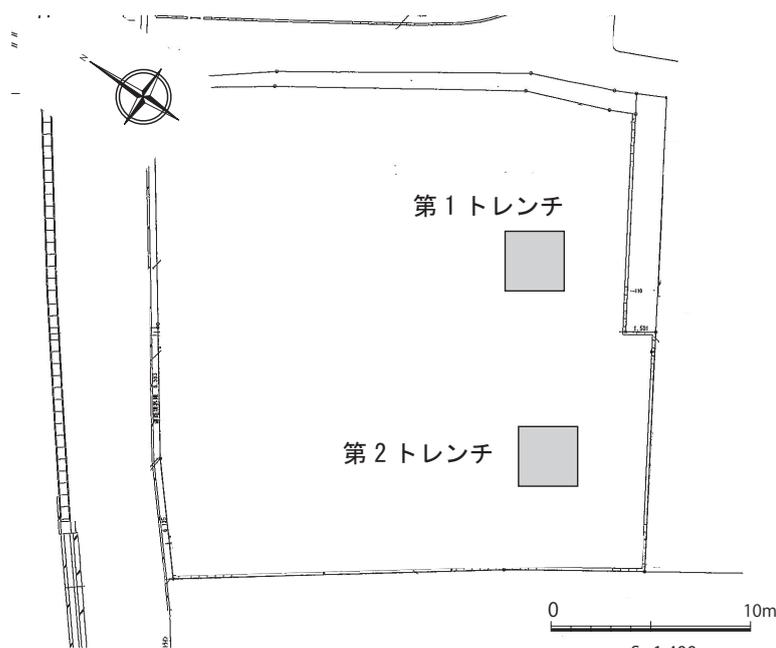
調査は3×3mのトレンチを2箇所設定した。基本層序は、上から①整地層、②茶褐色粘質土、③灰褐色粘質土、④黄褐色混じり灰褐色粘質土、⑤黄褐色砂質土、⑥黄褐色砂で、現地表面から90cm下で⑤層を確認した。④層については第1トレンチでのみ確認した。第2トレンチでは、近代から現代のものとみられる水田の暗渠を確認したが、社寺に関わる遺構や遺物は確認できなかった。

まとめ

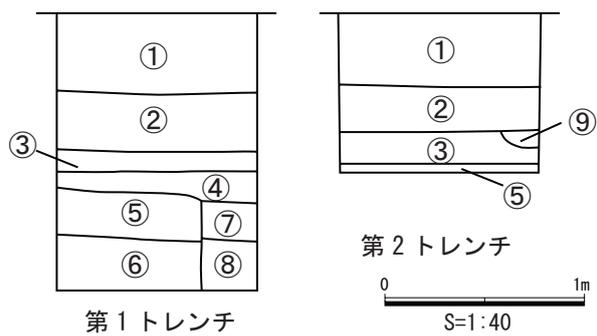
今回の調査地では遺構・遺物ともに発見できなかった。調査結果により、安養院遺跡の範囲を縮小した。遺跡の中心は今回の調査地よりも南にあるとみられ、今後の調査によって、安養院に関する遺構が確認される可能性がある。調査の進展に期待したい。



第1図：調査地位位置図



第2図：トレンチ位置図



- 土層凡例
- ① 整地層
 - ② 茶褐色粘質土
 - ③ 灰褐色粘質土
 - ④ 黄褐色混じり灰褐色粘質土
 - ⑤ 黄褐色砂質土
 - ⑥ 黄褐色砂
 - ⑦ 黄褐色粘質土
 - ⑧ 黒灰色粘質土（礫含む）
 - ⑨ 水田暗渠

第3図：土層断面図



第1トレンチ全景



第2トレンチ全景



第1トレンチ土層



第2トレンチ土層

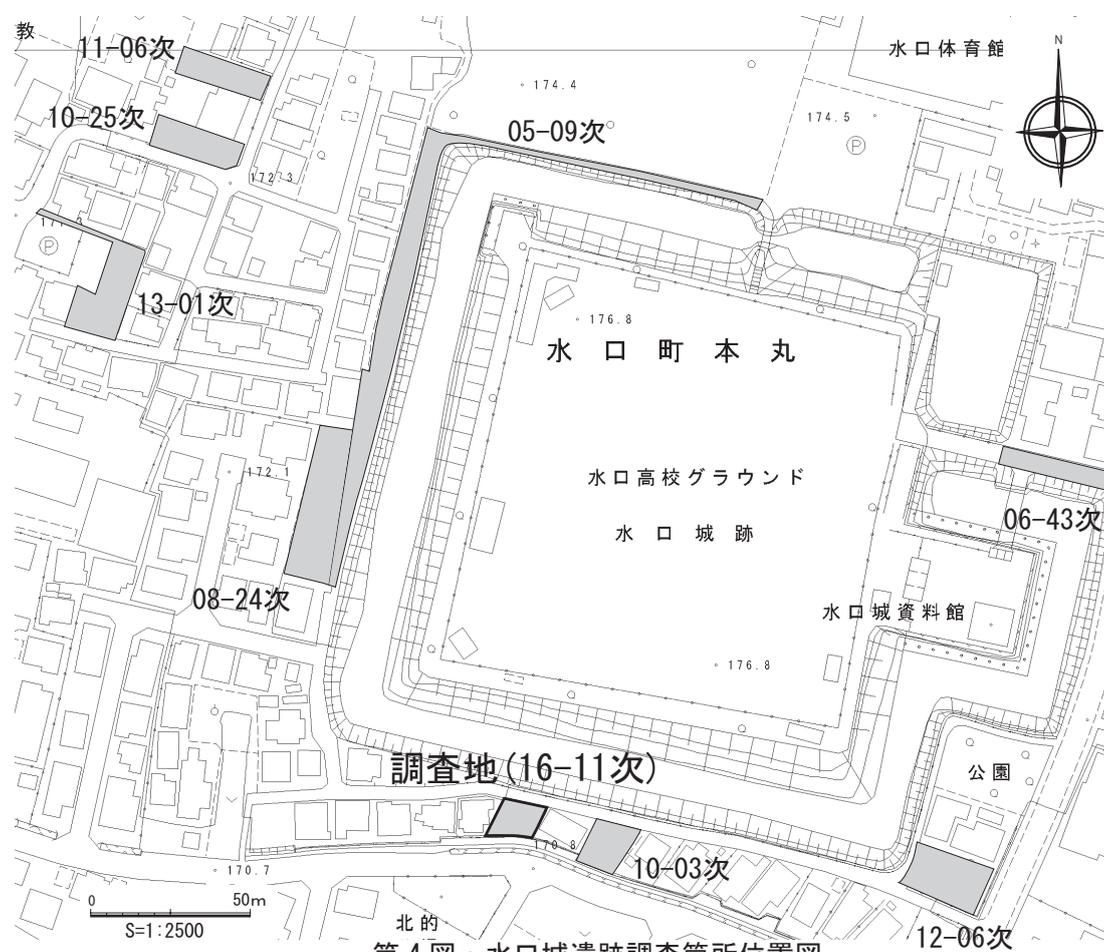
16-11次 水口城遺跡

調査位置と調査経緯

水口城は、寛永11年(1634年)に徳川家光が上洛をする際の宿館として築かれた。別名碧水城とも呼ばれている。水口城は、方形区画と東側に突出した外柵形を持ち、四方を水堀と石垣で囲み、四隅に櫓を配した本丸と、その北側の二の丸で構成された。当初はこの本丸・二の丸が城地であったが、天和2年(1682年)の加藤氏入封による水口藩の成立により、二の丸に置かれた藩庁を中心に、家臣屋敷を造成している。江戸時代後期に描かれた「水口城郭内絵図」からは、城の東から北、そして西側を取り囲むかたちで、町方や地方と門や長屋、柵などで隔離された武家地が形成されたことがわかり、この武家地を「郭内」と呼んだ。この絵図からわかる「郭内」の範囲が、水口城遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録されている。

現在、水口城遺跡はほとんどが宅地化されており、過去に実施された調査は小規模な試掘調査が大半である。平成17年度に実施された試掘調査では、上層から近世の遺構、下層からは緑釉陶器が出土するなど古代の遺構・遺物が確認されている。

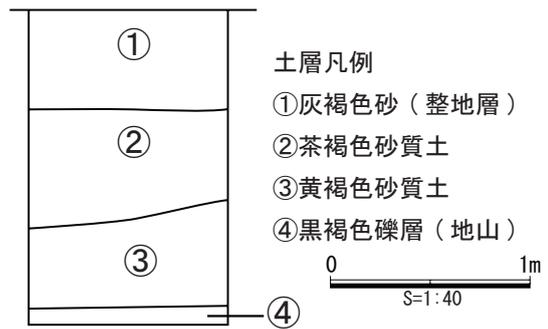
今回の調査地は本丸の南側の段丘上で実施した。個人専用住宅の建設に伴う試掘調査で、調査面積は3.6㎡であった。



第4図：水口城遺跡調査箇所位置図

調査概要

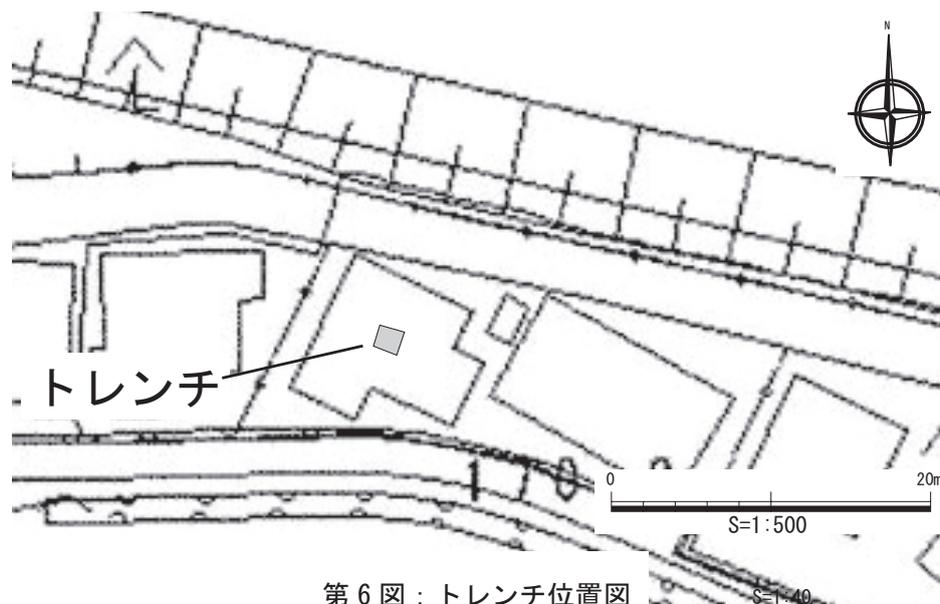
調査は1.8×1.8mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、上から①灰褐色砂(整地層)、②茶褐色砂質土、③黄褐色砂質土、④黒褐色礫層(地山)で、現地表面から約150cm下で④層を確認した。



第5図：土層断面図

まとめ

今回の調査では、遺構・遺物ともに発見できなかった。調査地は野洲川の形成した河岸段丘上に位置しており、本丸南側は段丘崖である。これまでの調査結果を踏まえると、水口城の本丸は段丘の高低差を利用して築城され、南側は段丘崖であり空間が確保できないことから、武家地などの水口城遺跡に関する遺構は、城の北西側に広がっているとみられる。



第6図：トレンチ位置図



第1トレンチ全景



第1トレンチ土層

16-13次 竹石遺跡近接地

調査位置と調査経緯

竹石遺跡は、水口町三大寺に所在し、柚川左岸の中位段丘の先端に立地している。遺跡周辺は昭和40～50年代にはほ場整備が行われ、南西から北東に向けて緩やかに傾斜する地形に一面水田が広がっている。竹石遺跡は、平成22年度に民間開発に伴う試掘調査によって新たに発見された遺跡であり、その後本発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居や、鎌倉から室町時代にかけての掘立柱建物や土壌墓が確認されている。11-02次の調査では、1・2・3トレンチで竪穴住居や掘立柱塀などの遺構が確認されている。今回の調査は、駐車場造成に伴う試掘調査であり、調査面積は135㎡であった。

調査概要

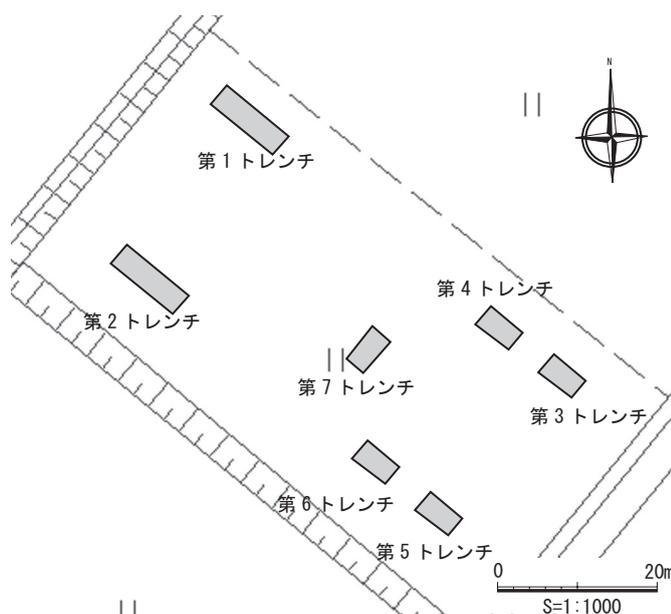
調査は3×10mのトレンチを2箇所、3×5mのトレンチを5箇所設定した。基本層序は、①耕作土、②茶褐色粘質土、③茶褐色混じり黒褐色粘質土、④黄灰色粘質土(1トレ)、⑤赤褐色砂(2トレ)、⑥青灰色砂(2トレ)であり、⑦層より下は砂と粘土の互層であった。現地表面より80cm下で④層を確認した。④層上では、ほ場整備時のキャタピラ痕を確認した。どのトレンチにおいても遺構・遺物ともに確認できなかった。

まとめ

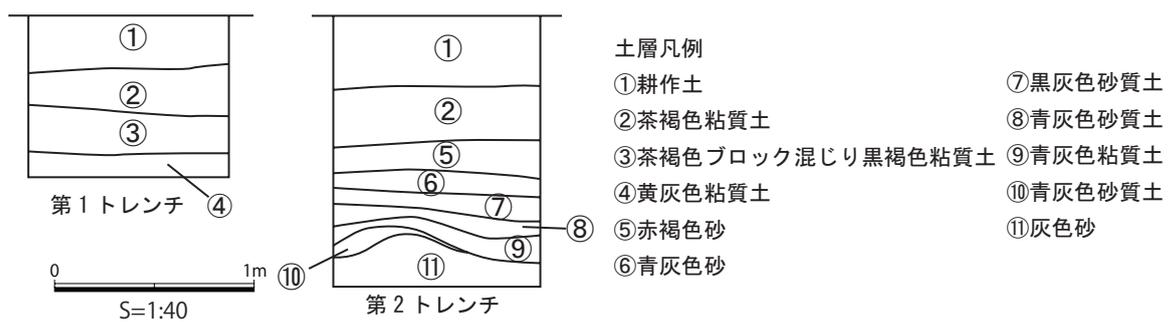
今回の調査では、遺構・遺物ともに確認できなかった。当該地は、ほ場整備によって遺跡が破壊されている可能性もあるが、これまでの調査で遺構が見つかった地点よりも標高がやや低い。11-02次の調査では、4トレでは遺構が確認されなかったことを踏まえると、遺跡の西側には広がらず、南東側へ広がると推定される。今後の調査に期待したい。



第7図：調査地位置図



第8図：トレンチ位置図



第9図：土層断面図



第1トレンチ全景



第2トレンチ全景



第1トレンチ土層



第2トレンチ土層

16-22次 北泉遺跡

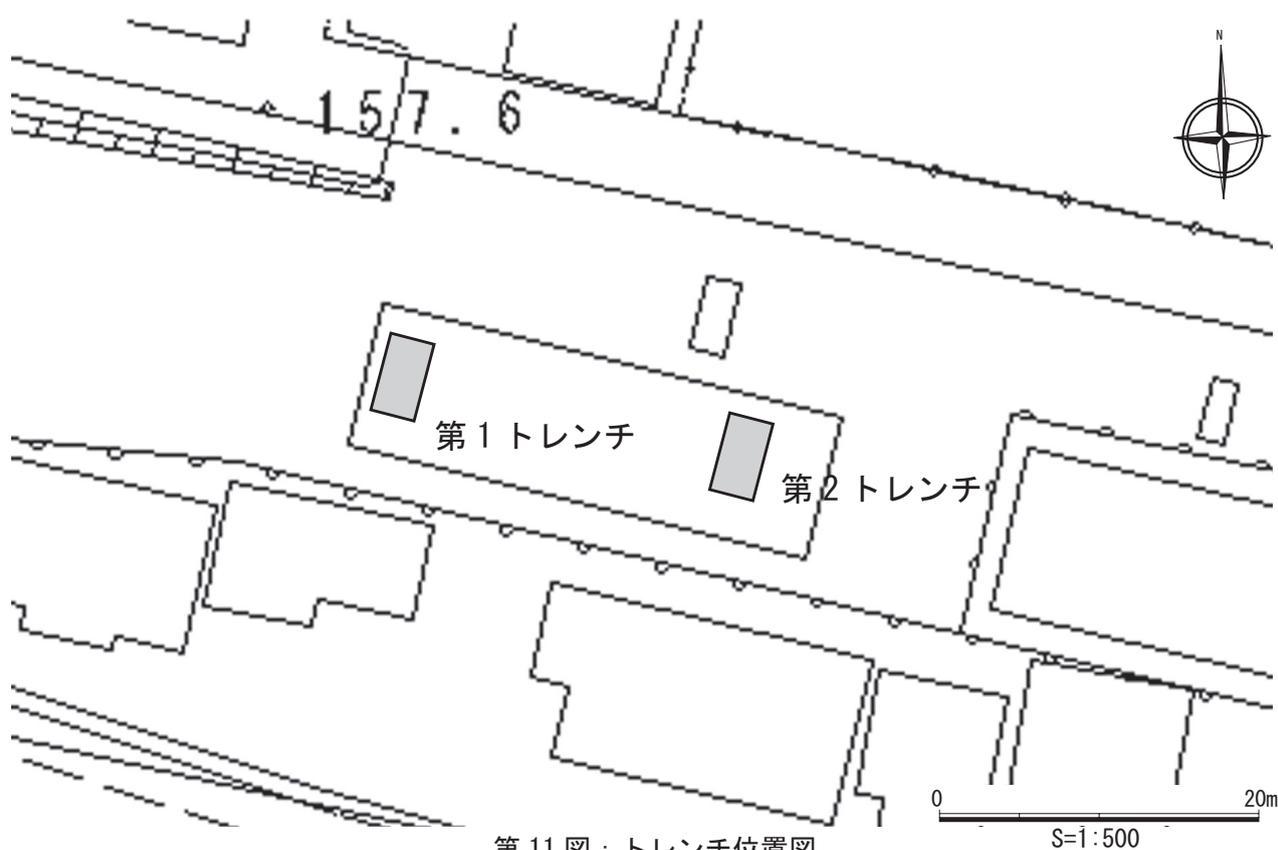
調査位置と調査経緯

北泉遺跡は、水口町北泉に所在する奈良時代の集落遺跡である。遺跡は野洲川が形成した河岸段丘上に位置し、東には北脇遺跡が、西には下川原遺跡が立地している。これまで小規模な試掘調査を実施したのみであるため、遺跡の詳細は不明確であるが、図10の06-21次では竪穴建物や方形土坑を、10-17次では方形土坑、溝を検出しており、遺物は須恵器や土師器が出土している。北泉遺跡の中央付近には、5世紀に築造された泉塚越古墳があり、その発掘調査の際に、周辺から奈良時代の竪穴住居が複数見つかった。

調査地は、遺構・遺物が確認されている地点より北側の丘陵に近く、レベルが高いところに位置している。集合住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は30㎡であった。



第10図：調査地位置図



第11図：トレンチ位置図

調査概要

調査は3×5mのトレンチを2箇所設定した。基本層序は、上から①造成土、②旧造成土、③黒灰色粘質土、④黄褐色粘質土(地山)で、現地表面から160cm下で④層を確認した。遺構面と考えられる層は確認できなかった。



まとめ

今回の調査地では遺構・遺物ともに確認できなかった。これまでの試掘調査では、丘陵よりレベルが下がった地点で遺構・遺物が確認されており、北泉遺跡の中心もその周辺に広がっていると考えられる。今後の調査の進展に期待したい。



第1トレンチ全景



第2トレンチ全景



第1トレンチ土層



第2トレンチ土層

16-23次 城南遺跡

調査位置と調査経緯

城南遺跡は、水口町水口に所在する古墳時代から中世の遺物が散布する遺跡である。遺跡は野洲川が形成した河岸段丘上に位置している。これまでに実施された試掘調査では、須恵器や土師器、陶器などが出土しているが、遺構は検出されていない。

今回の調査は駐車場造成に伴う試掘調査で、調査面積は75㎡であった。

調査概要

調査は3×5mのトレンチを5箇所設定した。基本層序は、上から①耕作土、②濃茶褐色粘質土、③黄灰色粘質土、④灰色粘質土、⑤灰褐色粘質土(明褐色のブロック含む)である。⑤層より下層は野洲川の砂層である。④層で精査を行ったが遺構は確認されなかった。遺物は土師器片、16世紀頃の信楽焼播鉢が出土している。これらの遺物は小片のため、図化していない。



第13図：調査地位置図



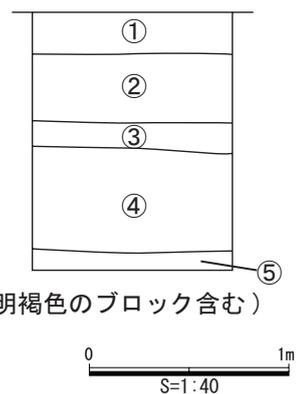
第14図：トレンチ位置図

まとめ

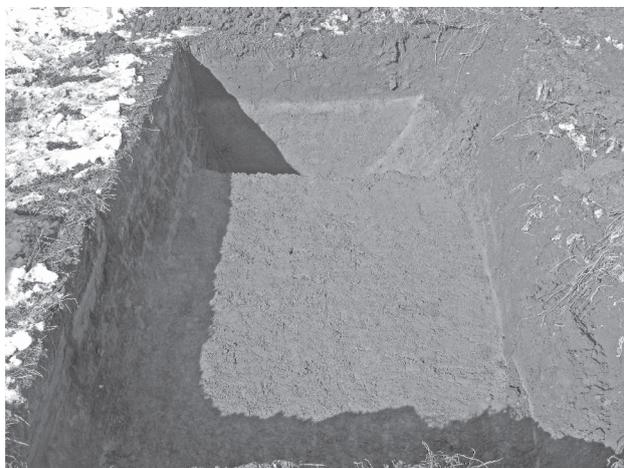
今回の調査地では、これまでの試掘調査と同様に遺構は確認されなかったが、遺物は出土した。遺構に伴って出土したものではなく、流れ込みであるとみられる。城南遺跡は野洲川の低位段丘に位置しており、北側には中位段丘がある。この中位段丘上に集落が存在していたのではないかと考えられる。今後の調査によって古墳時代から中世の集落跡が発見される可能性は大いにある。

土層凡例

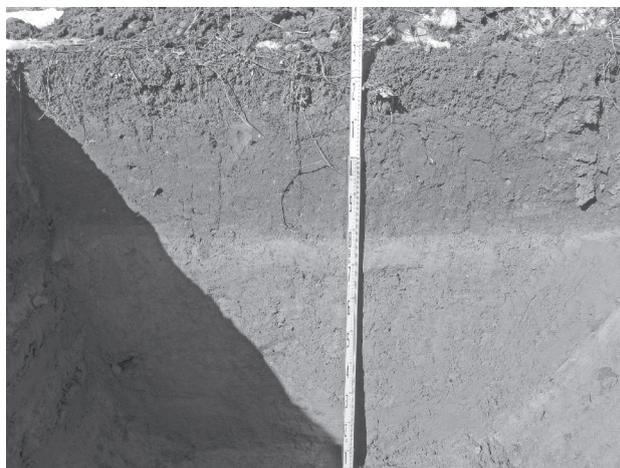
- ①耕作土
- ②濃茶褐色粘質土
- ③黄灰色粘質土
- ④灰色粘質土
- ⑤灰褐色粘質土（明褐色のブロック含む）



第15図：土層断面図



第1トレンチ全景



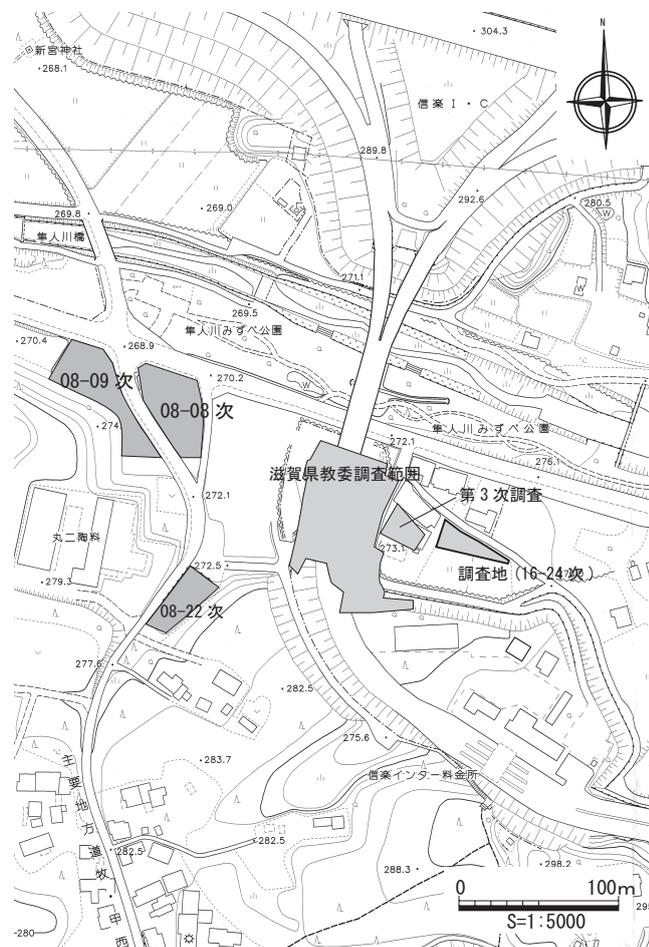
第1トレンチ土層

16-24次 鍛冶屋敷遺跡

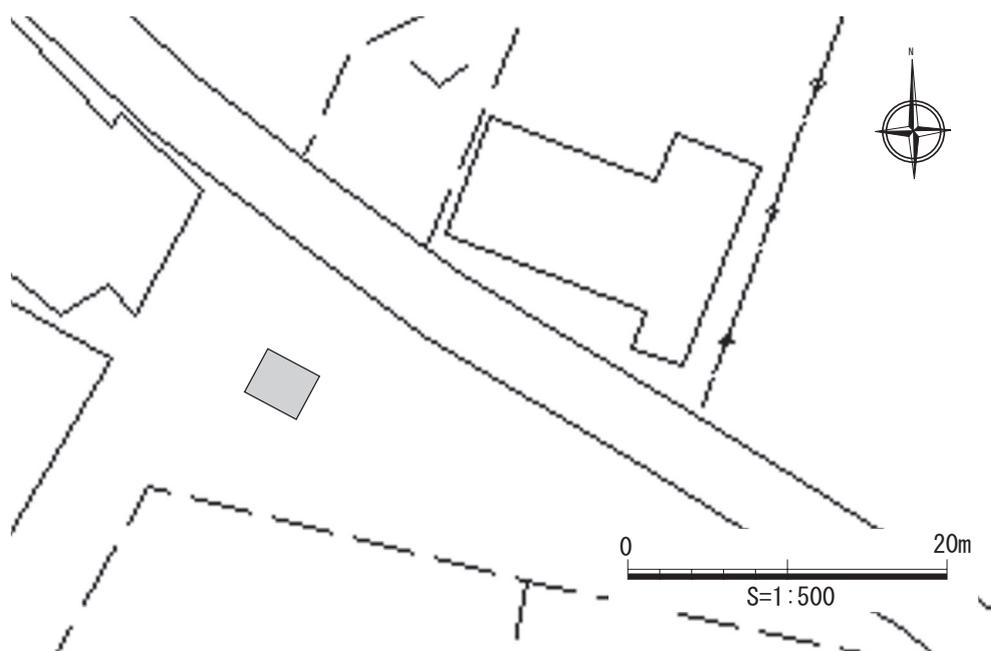
調査位置と調査経緯

鍛冶屋敷遺跡は、信楽町黄瀬に所在する奈良時代の工房遺跡である。史跡紫香楽宮跡内裏野地区から東北へ約40m離れた丘陵縁辺部に位置する。これまでに、新名神高速道路建設に伴う発掘調査で、梵鐘など大型銅製品の鋳型の出土や、規則的に配置された鋳造遺構が多数検出されている。また、南北方向に並列配置された東西棟の掘立柱建物2棟が確認されている。鍛冶屋敷遺跡は、甲賀寺の造営に関連した大規模な工房跡であったと考えられているが、発掘調査では、遺構の重複関係から3時期の変遷が想定されている。

今回の調査は個人専用住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は12㎡であった。



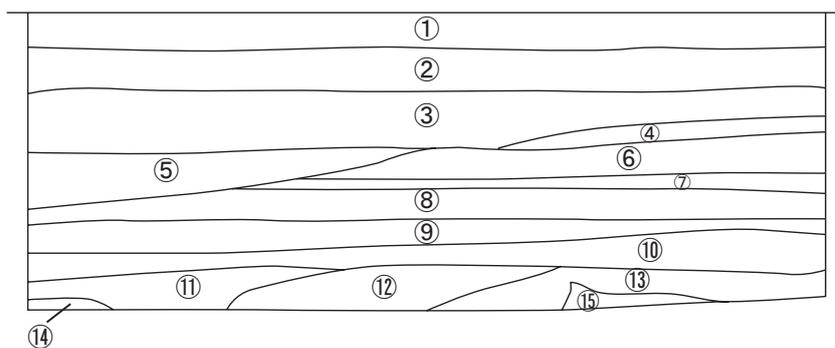
第16図：調査地位置図



第17図：トレンチ位置図

調査概要

調査は3×4mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、上から①表土、②赤褐色砂質土、③黒灰色砂質土、④黒褐色砂質土、⑤灰白色細砂、⑥茶褐色細砂、⑦灰白色砂質土、⑧赤褐色粘質土、⑨灰色粘質土である。⑨層より下は粘質土と砂質土の互層であった。遺構、遺物ともに発見できなかった。



土層凡例

- | | |
|---------|-------------|
| ①表土 | ⑨赤褐色粘質土 |
| ②赤褐色砂質土 | ⑩灰色粘質土 |
| ③黒灰色砂質土 | ⑪赤褐色混じり灰白色砂 |
| ④黒褐色砂質土 | ⑫黒灰色粘質土 |
| ⑤黒褐色砂質土 | ⑬灰白色砂質土 |
| ⑥灰白色細砂 | ⑭黒灰色粘質土 |
| ⑦茶褐色細砂 | ⑮明黒灰色粘質土 |
| ⑧灰白色砂質土 | |

0 1m
S=1:40

第18図：土層断面図

まとめ

当該地は砂と粘土が東から西へ傾斜しながら互層状に堆積しており、丘陵斜面に隼人川の洪水などで堆積したものと考えられる。そのため、遺構面は確認できなかった。今回の発掘調査によって、鍛冶屋敷遺跡の遺構は東側には広がらないとみられる。調査地は铸造遺構などが見つかっている地点よりもやや東へ離れているため、史跡の範囲が遺跡の中心であると推定される。



第1トレンチ全景



第1トレンチ土層

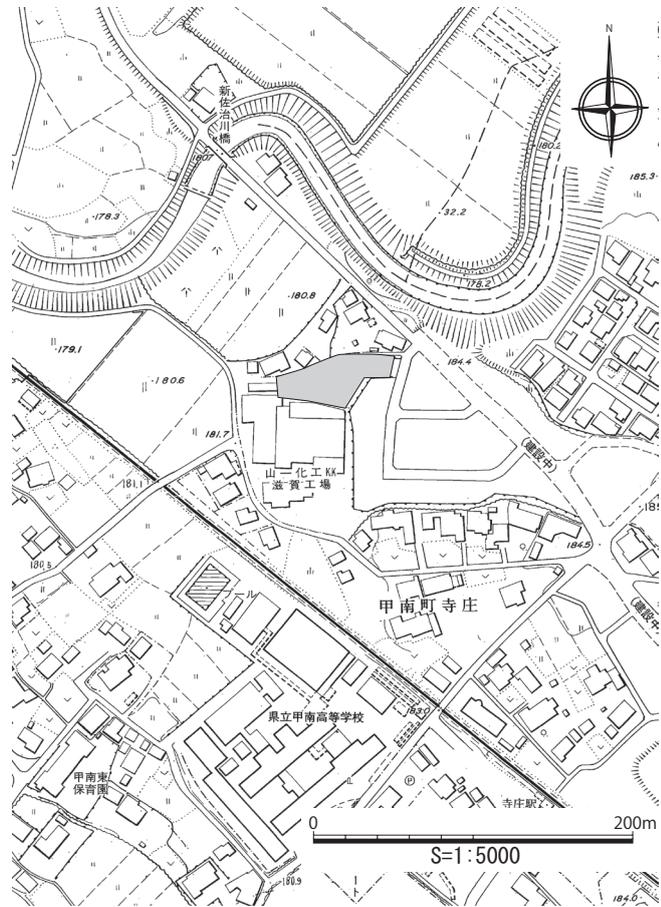
16-25 次 寺庄城遺跡

調査位置と調査経緯

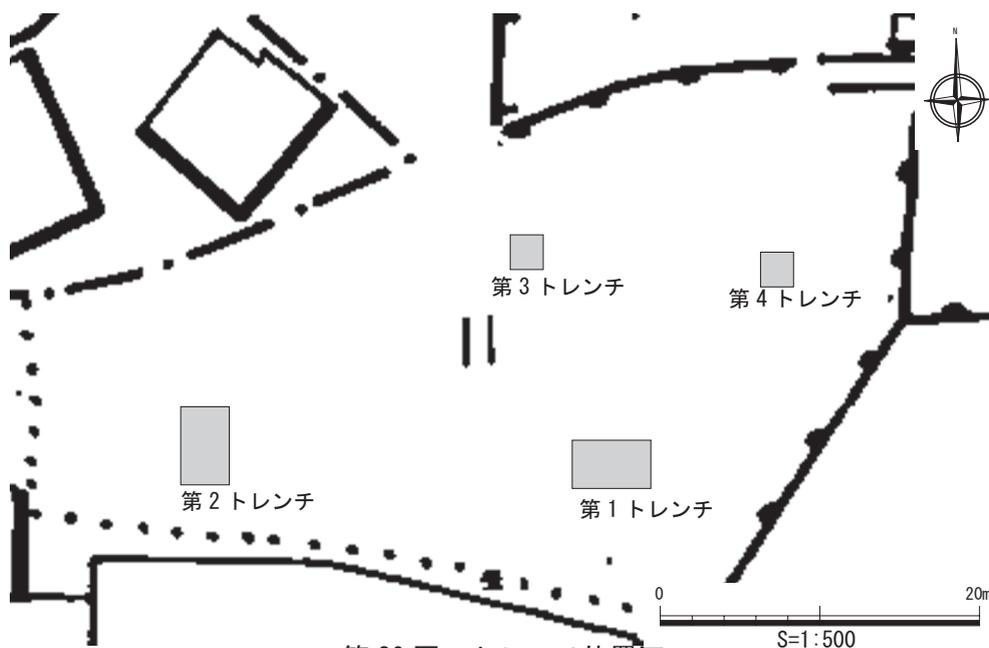
寺庄城遺跡は、甲南町寺庄に所在し、杣街道に沿った寺庄の集落から北東に 200 m 離れた台地上に立地している。明治 6 年 (1873 年) の「近江国甲賀郡寺庄村地券取調総絵図」には、方形の田地を囲む山林があり、南外側にはそれを囲む細長い田地や池が認められる。『甲賀郡志』によると明治 22 年 (1889 年) の関西鉄道 (現 JR) 草津線敷設によって土塁が破壊されたとされる。今回の調査は城の方形区画の北側で行った集合住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は 38m²であった。

調査概要

調査は、3×5 m と 2×2 m のトレンチをそれぞれ 2 箇所ずつ設定した。基本層序は、①灰褐色粘質土、②黄斑灰褐色粘質土、③黄褐色粘質土 (礫混じり)、④青灰色粘質土、⑤淡灰褐色砂質土で、現地表面から約 80cm 下で⑤層を確認した。どのトレンチにおいても遺構・遺物ともに確認できなかった。



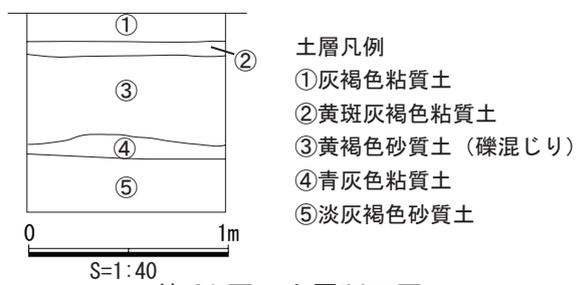
第 19 図：調査地位置図



第 20 図：トレンチ位置図

まとめ

今回の調査では、遺構・遺物ともに確認できなかった。調査地は寺庄城に関する遺構のほとんどは、草津線敷設時と工場造成によって破壊されてしまったと考えられる。



第 21 図：土層断面図



第 1 トレンチ全景



第 2 トレンチ全景



第 1 トレンチ土層



第 2 トレンチ土層

16-26 次 水口町酒人地先

調査位置と調査経緯

水口町酒人は水口町の中西部に位置し、南を野洲川が流れる。北は泉、東は植・宇田、南は野洲川をはさんで宇川、西も野洲川をはさんで湖南市三雲と接する。酒人は、中世に柏木荘、伊勢神宮領の柏木御厨のうち酒人郷に属した。能を大成した世阿弥の談話を記した『申楽談儀』にみえる近江猿楽下三座のうち、「さかうと」は水口町酒人であると推定されている。これまで当該地周辺で試掘調査を実施していないため、埋蔵文化財は確認されていないが、酒人の東側に位置する植では古墳時代中期から後期にかけて営まれた大規模集落の植遺跡が見つかっている。今回の調査は酒人の集落より北側の地点で、工場の倉庫建設に伴う試掘調査で、調査面積は45㎡であった。

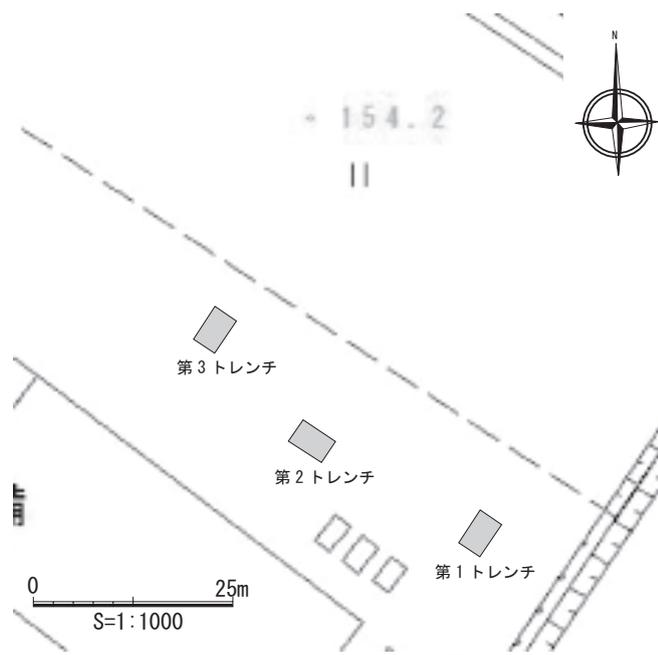
調査概要

調査は3×5mのトレンチを3箇所設定した。基本層序は①造成土、②黒褐色礫、③黒灰色粘質土(旧耕作土)、④茶褐色粘質土、⑤濃茶褐色粘質土であり、⑤層は現地表面から約150cm下で確認した。遺構面と考えられる層は確認できなかったが、④層及び⑤層から須恵器、土師器、瓦器、瓦が出土した。図化できた以下4点を報告する。

1は、須恵器の杯Hの蓋である。天井部のみの残存で、口径、器高ともに不明である。色調は薄い青灰色で、内面はナデにより調整をしているが、外面は摩滅のため調整が不明である。2は、須恵器の甕である。体部のみの残存で、色調は暗青灰色で、外面は格子タタキ、内面は当て具痕の同心円文が残る。3は、須

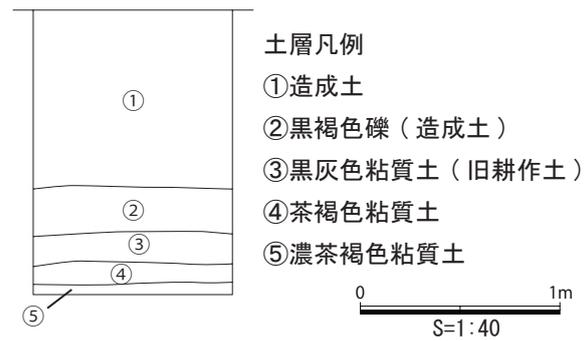


第22図：調査地位置図



第23図：トレンチ位置図

恵器の甕である。体部のみの残存で、色調は暗青灰色、外面は格子タタキ、内面は当て具痕が明瞭に残る。4は、陶器の皿である。高台部が一部残存し、高台径は推定8cmである。色調は白黄灰色で、底部外面以外には淡黄茶色の灰釉が施されている。底部内面には圈線が巡り、高台は貼り付けて成形されている。

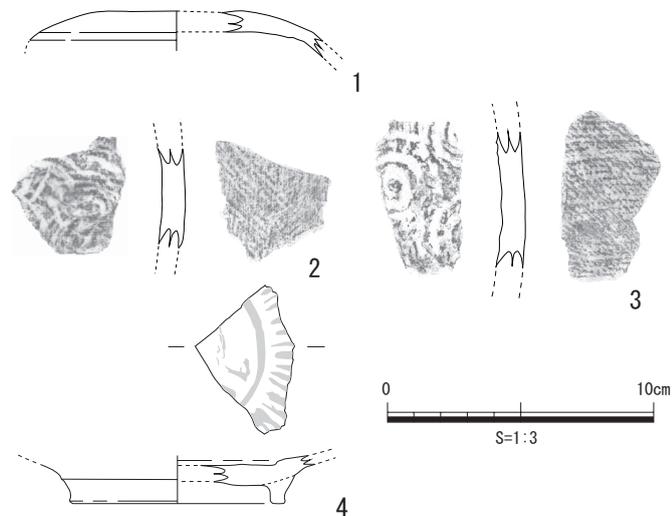


第24図：土層断面図

まとめ

今回の調査地において、⑤層が比較的安定した面であるため、精査をかけたが遺構は確認できなかった。④層及び⑤層から1～4の時代が異なる遺物が出土していることから、それぞれ別の地点からの流れ込みであると推定される。

調査地北側の小字が將軍地である。伝承ではあるが、この將軍地に「さるごう」と呼ぶ田があったという。中世でも調査地周辺は現代と同じく水田が広がっており、集落は現在の位置と変わらなかった



第25図：出土遺物

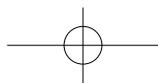
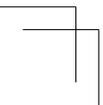
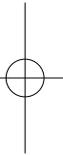
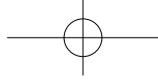
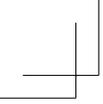
のではないかとと思われる。しかし、古代の遺物が見つまっているため、中世以前には周辺で集落が営まれていた可能性がある。今後の調査に期待したい。



第1トレンチ全景



第1トレンチ土層



報告書抄録

ふりがな	へいせいにしじゅうくねんど しなしいせきはつちつちょうさほうこくしよ							
書名	平成29年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第31集							
編著者名	伊藤 航貴							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市							
発行年月日	平成30年(2018年) 月 日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積(m ²)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
安養院遺跡	甲南町竜法師字宮根	25209	366-022	34° 55' 09.7"	136° 10' 15.9"	18	2016/9/14	個人住宅
水口城遺跡	水口町本丸	25209	363-113	34° 58' 10.7"	136° 09' 50.4"	3.6	2016/9/13	個人住宅
竹石遺跡近接地	水口町三大寺字竹石	25209		34° 56' 57.9"	136° 08' 40.2"	135	2016/10/04~ 2016/10/11	その他開発(駐車場)
北泉遺跡	水口町北泉	25209	363-104	34° 59' 08.7"	136° 08' 16.4"	30	2016/2/14	長屋住宅
城南遺跡	水口町水口字樋下	25209	363-111	34° 58' 00.3"	136° 09' 53.5"	75	2017/1/26	その他開発(駐車場)
鍛冶屋敷遺跡	信楽町黄瀬字半シ	25209	367-045	34° 55' 20.5"	136° 05' 08.3"	12	2017/2/3	個人住宅
寺庄城遺跡	甲南町寺庄門田	25209	366-002	34° 55' 17.4"	136° 11' 05.4"	38	2017/3/13	長屋住宅
水口町酒人地先	水口町酒人字北田井	25209		34° 58' 42.2"	136° 08' 12.1"	45	2017/3/9	工場の倉庫
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
安養院遺跡	社寺跡	その他						
水口城遺跡	城館跡	近世						
竹石遺跡近接地	集落跡	古墳～中世						
北泉遺跡	集落跡	古代						
城南遺跡	散布地	中世～近世				土師器、陶器、信楽焼		
鍛冶屋敷遺跡	生産遺跡	平安～近世						
寺庄城遺跡	城館跡	中世						
水口町酒人地先						須恵器、土師器、瓦器、瓦		

甲賀市文化財報告書第31集
平成29年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行 2018年2月28日
編集・発行 甲賀市教育委員会
滋賀県甲賀市水口町水口6053番地
TEL 0748-69-2251
FAX 0748-69-2293
印刷 株式会社トップ

